

早瀬子供歌舞伎

区民の気持ちをつなぐ、伝統芸能



北村 晋さん
福井県美浜町
早瀬子供歌舞伎保存会 会長

海産物や農機具の行商で栄え、華やかな伝統芸能が根付く

男児の減少で一時は中断、区民の要望で復活

映画「サクラサク」にも登場、伝承への気持ちを新たに

近江・美濃・尾張方面など外部と活発な交流がありました。また、同地区で改良された農機具（千歯扱き）を全国に行商し、多くの財をなしたと伝えられています。このような財力を背景に、早瀬地区では周辺では類を見ない華やかな芸能が根付き、伝承されてきたと考えられています。

曳き出され、その上で演目「寿式三番叟」が奉納されます。江戸期から大正期には120余の台本から時代・世話・艶物を選んで芝居三幕も同時に上演していましたが、昭和に入ってから芝居は二幕になり、昭和42年頃からは少子化の影響もあって演目は「寿式三番叟」のみに。昭和51〜55年には男児の減少と費用負担の大きさとで中断されたこともありましたが、区民の強い要望で昭和56年に復活。平成9年には早瀬子供歌舞伎保存会が結成され、美浜町が無形文化財に指定するなど、地域をあげて子供歌舞伎の伝承に力を注いでいます。

美浜町早瀬の子供歌舞伎は、江戸時代からこの地に受け継がれている地方芸能です。安政3年（1858）、同地区でコレラが流行し多数の死者が出ました。その際、地区の住職が「これは神仏の祟りである。寺社に子供歌舞伎を奉納せよ」との託宣を受け、区内の寺社に子供歌舞伎を奉納したところ、コレラの流行はおさまったと言ひ伝えられています。

早瀬の子供歌舞伎は毎年5月5日、日吉神社例大祭に社前をはじめとする区内各地巡行する山車の舞台上演されます。役者となるのは小学2年生から5年生の男子児童。舞台型の山車が乗った山車は、保存会のメンバーがすみずみまで磨き上げ、本番に臨みます。

平成27年から保存会の会長を務める北村晋さんも、自身が小学生だった昭和29年頃、舞台に立った思い出があると言います。

「当時は京都出身の役者さんが早瀬に移り住み、子供歌舞伎の指導に当たってくれました。大変厳しい指導をされたのを覚えていますね」

現在は保存会の若手2名が指導にあたり、3月20日頃から稽古を開始。ビデオを見ながら振り付けなどの練習を行い、本番に臨みます。

平成26年、早瀬子供歌舞伎は福井県を題材にした映画「サクラサク」にも登場し、脚光を集めました。

「映画で取り上げてもらったことで区民の結束が強まり、改めて『子供歌舞伎を絶やさず継承していかなければ』、という思いが強まりました」と北村会長。子供から大人までが気持ちを一つにし、伝統を次の世代へと受け継いでいく。早瀬子供歌舞伎は、地域の絆を育む行事として、これからも地区の人々の手で守り続けられていくでしょう。



舞台に乗った山車は、保存会のメンバーがすみずみまで磨き上げ、本番に臨みます。



演目「寿式三番叟」の一幕。地元住民はもちろん、県外からもカメラを持ったファンが訪れ、賑わいを見せます。

● 早瀬子供歌舞伎
開催日時／毎年5月5日
開催場所／美浜町早瀬日吉神社周辺